



ぼくたち きょうだい



いもうとのにゆういん

筒井 頼子 さく 林 明子 え 福音館書店 E-八

あさえはともだちと、にんぎょうのほっぺこちゃんであそぶやくそくをしましたが、ほっぺこちゃんがみあたりません。あさえは、またいもうとのあやちゃんのいたずらだとおもいました。そのとき、おかあさんがぐったりしたあやちゃんをおんぶして、へやからでてきます。びょういんにつれていったおかあさんは、あやちゃんがにゆういんすることになったとあさえにいいました。

王さまと九人のきょうだい 中国の民話

君島 久子 訳 赤羽 末吉 絵 岩波書店 E-ア

ある村に、子どもがほしいとおもっているとしよりのふうふがいました。ある日おばあさんがさびしく池のほとりにいると、こぼれたなみだが池の中におち、白いかみの老人があらわれました。老人は、おばあさんにひとつぶのむと子どもがひとりうまれるくすりを九つわたします。おばあさんが一ぺんにくすりをのむと、ある日とつぜん九人のあかんぼうがうまれました。

ながいながいペンギンの話

いぬい とみこ 作 岩波書店 913-イ

南極の島に、ルルとキキというペンギンのきょうだいがいました。ある日、ふたりはおとうさんとおかあさんのかえりをまっていた。ルルは、おなかがすいてなきだしたキキに、ふたりでたべるものをさがそうといます。しかし、まだちいさいからそとへ出ちゃいけないとおとうさんにいわれていたキキは、そのさそいをことわります。ルルは、くたびれてねむってしまったキキをおいて、ゆきのはらっぱへ出ていきました。

うできき四人きょうだい グリム童話

フェリクス・ホフマン 画 寺岡 寿子 訳 福音館書店 Eーホ

むかし、びんぼうな男^{おとこ}が四人^{よにん}のむすこによその土地^{とち}にいて、しごとをおぼえてくるように
いいました。町^{まち}をでた四人^{よにん}は道^{みち}が四つ^{よっ}にわかれているところで、「四年^{よねん}たったら、またここであ
おう」といい、わかれていきました。そして、いちばん上^{うえ}はどろぼうに、二^にばんめは星^{ほし}のぞきに、
三^{さん}ばんめはかりゅうどに、すえのおとうとはしたてやになります。

カモのきょうだい クリとゴマ

なかがわ ちひろ 作・絵 アリス館 488ーナ

大雨^{おおあめ}の日^ひ、ゲンとふみは田^たんぼのあぜ道^{みち}からカルガモのたまごをひろってきます。たまごをあ
たため毎日^{まいにち}ひっくりかえすと、三週^{さんしゅうかん}間^{かん}ほどたったある日^ひ、カチカチカチというたまごのからを
つつく音^{おと}が聞こえました。何時間^{なんじかん}もかけて、やっと生まれた二羽^{にわ}のひなに、クリとゴマと名前^{なまえ}を
つけました。

もりのへなそうる

わたなべ しげお さく 福音館書店 913ーワ

てつたくんは五^ごさい、みつやくんは三^{さん}さいのきょうだいです。あるひ、もりへたんけん^{さん}にでか
けたふたりは、あかときいろのしまもようのおおきなたまごをみつけます。ふたりは、くさやは
っぱでたまごをかくし、ようすをみることにしました。そして、だれにもみつからないように『ひ
みつです』とかいたがようしをくさのやまにたてました。

ふたりのロツテ

エーリヒ・ケストナー 作 池田 香代子 訳 岩波書店 943ーケ

ゼービュール村^{むら}に、女^{おんな}の子^こが夏^{なつ}休み^{やす}をすごす子ども^この家^{いえ}があります。そこに、巻^まき毛^げのルイ
ーゼがやってきました。ある日^ひの午後^{ごご}、新^{あたら}しくやってきた二十人^{にじゅうにん}のなかに、ロツテというおさ
げの女^{おんな}の子^こがいました。ロツテはルイーゼをみ^みて、目^めを見^みひらきます。二人^{ふたり}は、うりふたつだ
ったのです。